
株式会社キャタル
「オンラインライティング添削教材
『Rewrites』の学校教育への導入実証」

背景と事業の狙い

背景

2020年度より大学入試に導入される英語 4 技能試験によって、次の課題がもたらされる。

1. 教師の負担増：各生徒に対し英語のアウトプット（Writing /Speaking）へのフィードバックが求められる。現状でも忙しい教師に授業外の指導時間がさらに増えることとなり、追加の負荷となる。
2. 英語教師の能力的格差：文部科学省が目標とする教師の英語の基準は「CEFR B2レベル相当以上」ですが、その基準以上の英語力を有する教員は、中学で32%、高校で62%（平成28年度「英語教育実施状況調査」）。その上を目指すトップクラスの高校生の指導を、生徒より英語力の低い教師はどのように指導していくのか。英語学習の負荷も増大する。
3. 質の高いフィードバックを受けられるかどうかによっての教育格差：都会の私立中高の一部の英語に特化した特別コースに入る生徒、もしくは4技能型の英語塾に通える経済的に恵まれた生徒が有利となる。新たな所得格差、地域格差に繋がりがかねない深刻な問題をはらんでいる。
4. クラス内の英語力格差：英語産業の発展と、生徒が異なるバックグラウンドを持ち多様性が向上。教室内の英語力の差がさらに広がる可能性がある。

事業の狙い

事業の対象は、全国の私立・公立に通う高校生およびその担任教師。Rewrites を通じて、左記に記載した課題を以下のように解決していきたい。

1. 教師の負担軽減：フィードバックを外部委託することになるため、教師の授業外の指導時間をゼロにできる。
2. 英語教師の能力に依存しない授業：英語力の高いバイリンガル&ネイティブに添削を依頼できる。学校教師は生徒とのリレーションシップ構築をしながら学習指導やコーチングに専念できる。
3. 場所や学校問わず質の高いフィードバックが可能：Rewritesはオンラインで提出・添削できるため、居住地、公立・私立関係なく、塾に行かなくても4技能試験で結果を出せる。
4. 各自のレベルに合った学習：生徒はそれぞれの実力に合ったテキストを読み、それぞれのライティングに対するフィードバックを受けられる。Adaptive Learning で各自のレベルにあった学習が可能になる。

さらに、Rewritesを通じて、以下のように「未来の教室」を実現できる。

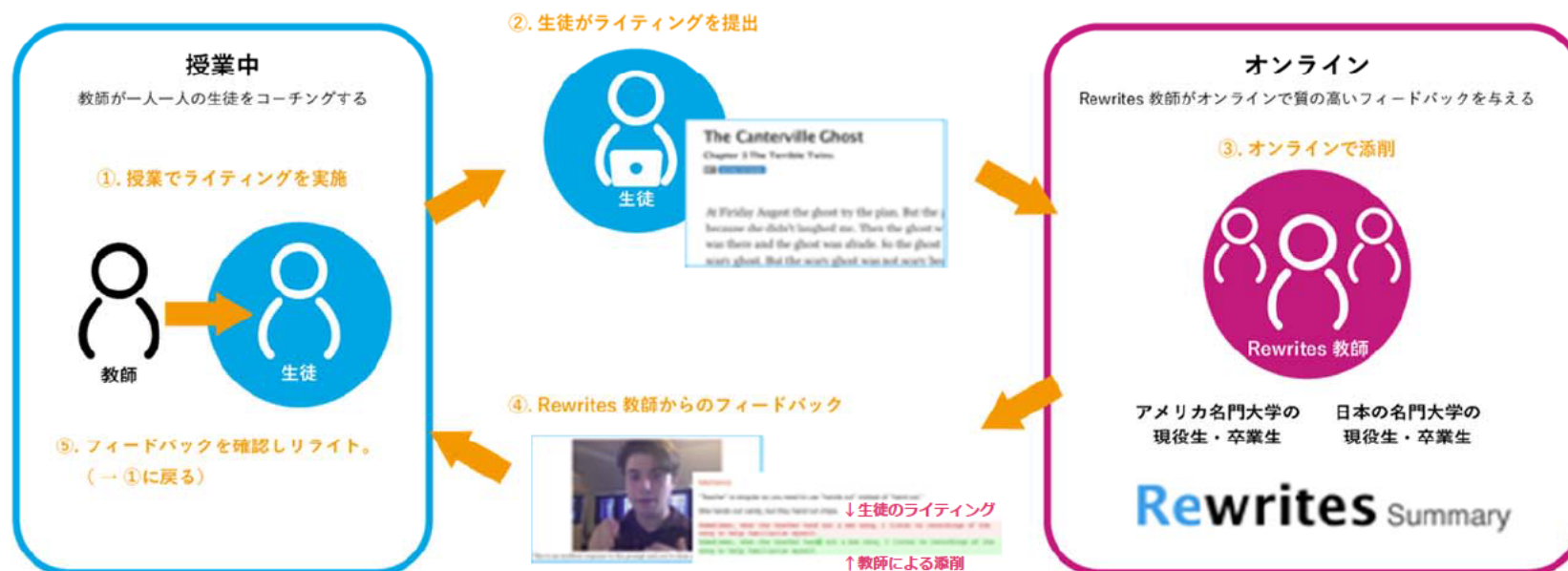
- 教員の「働き方改革」
- 教員の役割が多様化：TeachingからCoachingへの移行
- 教育の質的な機会均等
- 「学びの生産性」の最大化
- 生徒と「ロールモデル」との出会い

実施内容 : Rewrites Summary の概要

Rewrites Summary とは…

生徒各自のレベルにあった英語の本のサマリーライティングを行いながら以下のサイクルを繰り返し、英語力の高い先生の表現を真似たり、文法を直したりしながら英語力を上げることを目指したオンライン添削サービスです。

「書く」Write → 「フィードバック」Feedback → 「書き直す」Rewrite



278

実施内容：オンライン添削教師



<事業概要>

オンラインの添削教師はイエール大学を中心としたアメリカトップスクールの学生・卒業生たち、またはネイティブレベルの英語力を持った日本の名門大学出身のバイリンガルである。普段出会えない、海外大学の学生達にインターネットを通じて毎週会うことができる。

高い英語力を持って自分の学力を掴み取った米国最高のエリートたちから、質の高いフィードバックを得られるだけでなく、普段会うことのできないトップスクールの学生から、高いビジョンを示してもらうことで、生徒は将来の留学の夢を膨らませたり、身近に感じたりすることができる。

国際基督教大学の教師



イエール大学の教師



動画とコメントによるフィードバック

Hi Takumi!!! I hope everything is going well and that you are having a great summer break!

This is an excellent response to this prompt and you've done a great job with this essay!

Word Use/Grammar Content/Accuracy

It is important to write that Nancy wanted to talk to Rose to protect Oliver. The other characters in the book may be bad people, but Nancy is a nice girl.

↑ 生徒のライティング

Nancy decided to talk some terrible things to Rose.

Nancy decided to tell the terrible things to Rose because she wanted to help Oliver.

↑ 教師による添削

Word Use/Grammar

"Listen" and hear" a little bit different. "Listen" is when you are paying attention to a sound, like listening to music. "Hear" is used when you are not paying attention to a sound.

Also, if a person is "dangerous," it means that he or she is trying to hurt somebody. Oliver is not dangerous. However, Oliver is in danger which means that somebody else is trying to hurt him.

Rose heard she said and inelie

Rose listened to what she said

Mechanics

"Teacher" is singular so you need to use "hands out" instead of "hand out."

She hands out candy, but they hand out chips.

Sometimes, when the teacher hand out a new song, I listen to recordings of the song to help familiarize myself.

Sometimes, when the teacher hand out a new song, I listen to recordings of the song to help familiarize myself.

Ideas Task Response

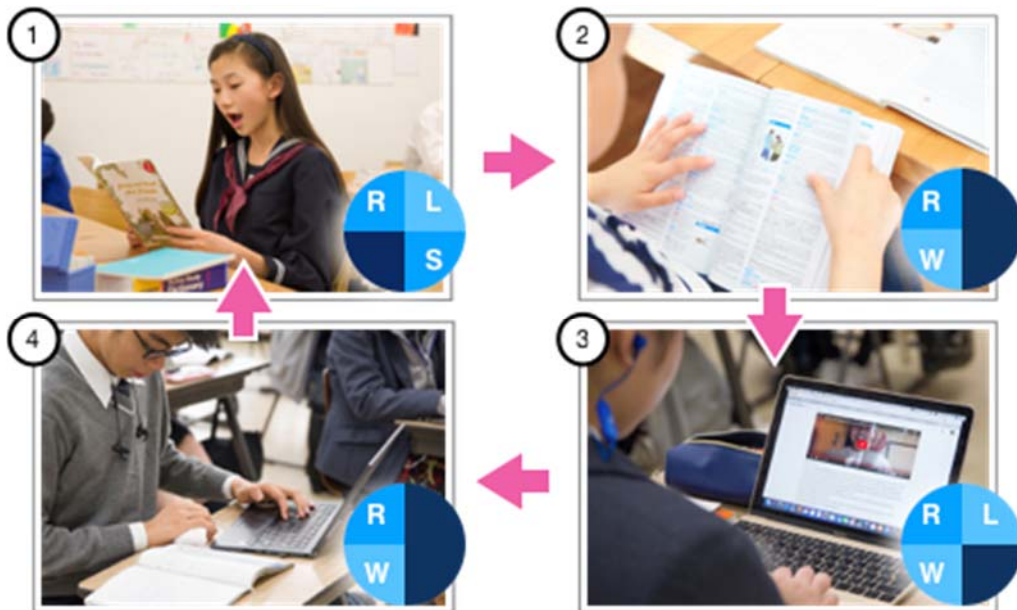
Are you playing the saxophone
split off into small groups at times?

英語ができるネイティブ&バイリンガルとの出会いと刺激

実施内容：授業の進め方

4技能試験導入（2020年）入学年にあたる、高校一年生に導入

生徒は各自のレベルに合ったストリーブックを1授業1チャプター読み進め、読んだチャプターについて毎回サマリー（要約）を英語で書き、オンラインの添削教師に提出する。これを通じて、自分が理解した内容を自分の言葉で伝える力をまず身につけてもらう。オンライン教師から添削が届いたら、次回の授業で確認し、また次のチャプターのサマリーを書いてもらう。教員は一人一人の生徒に回り、添削内容や先生からの動画メッセージを理解しているか、生徒が正しくレッスンの流れに沿って学習できているかを確認し、コーチングする。



導入校：武蔵野大学附属千代田高等学院

対象となる学年：高校1年生（2クラス）

授業内容（1授業＝2限）

時間	授業内容
1限目 音読	<ul style="list-style-type: none"> 今回のチャプターを音読する(1回目)：音を真似ることに集中 (listening & speaking) 今回のチャプターを音読する(2回目)：内容理解に集中 (reading) わからない単語を英英辞書で調べる
2限目 Rewrites Summary	<ul style="list-style-type: none"> Rewrites Summary にログインする 前回のサマリーへの添削を確認する 今回のチャプターの summary をタイプする Summaryを提出する
宿題	<ul style="list-style-type: none"> 添削されたサマリーを rewrite して公開する 今回読んだチャプターを音読する わからない単語の残りを英英辞書で調べる

合計10回の授業を実施。

成果：概要

達成したい状態

定量的成果：

・生徒はRewrites を使うことで、限られた時間内で書ける分量が増える（アウトプット量が増える）

定性的成果：

・生徒はフィードバックをもらうことで、ライティング力が成長したと感じられる。

・教員はRewritesを使うことで、生徒一人一人のレベルにあった英語教育を提供できると感じられる。

・教員は授業内外の負担が軽減されると感じる。

その他：

- ・コーチングマニュアルの作成
- ・カリキュラムとシラバスの作成

実際の達成度

定量的成果：

生徒のアウトプットは7回目までは明確に**増えた**。なお、8回目は事後アンケート実施のためライティングに割けられる授業時間が減ったため、9・10回目は冬休み明けの合同授業で期間が空いてしまった為、思うように伸びなかったと思われる。やはりリズムができあがった時点で定期的に書く→添削→リライトのサイクルを回すことで、生徒のモチベーションを保ち、成長を最大化できると考えられる。

定性的成果：

95%の生徒たちは成長を**実感している**。

85%がRewritesの授業を**続けたい**と言っている。担任の教員も「**授業中・授業外での負担が減った**」と感じている。ALTの先生は授業中の負担が増えたと感じているが、その分やりがいが増えたと感じている。

理由・改善/発展の方向性

理由

生徒が各自のレベルに合った教材を読み、自分のペースで進めら、パーソナライズされた添削コメントをもらったことで、一人一人成長を感じられた。

改善/発展

デバイスの問題：

千代田高等学院はもともと **BYOD (Bring Your Own Device)** 制だったので、生徒たちのデバイスリテラシーは高く、Rewrites Summary を使用する面でのハードルは下がった。しかし、音源ファイルの互換性の問題、保存先がわからなくなる、ストーリーミングの際にwifiが弱く音源が聞こえない、等によって授業時間のロスがあった。3回目の授業より生徒たちはようやくサイトの操作に慣れ始めた。

使用テキスト：

生徒によってはテキストが難しすぎた等、多少のレベルの不一致も見受けられた。**同じレベルの生徒同士でも、普段から読書する子としない子で大きく差が生まれた**。たとえば、読書に慣れていない生徒は、個々の単語は知っているが文章になると理解できない、という状態も見られた。紙ベースでのレベルチェックのみではなく、生徒自身に普段の読書量や英語への抵抗感などをアンケート形式で答えてもらい、担任の教員により深くヒアリングして各生徒の性格などを把握した上でテキストを決められるとなお良い。また、クラシックな物語を「つまらない」と感じてしまう生徒もいたため、もっとモダンな物語も選択肢に入れられると良いかもしれない。なお、同じ本を読む生徒同士が授業中に一緒に話し合い理解を深める等の姿も見られたため、本の種類はある程度限定しても良さそうではある。

今回、千代田の生徒さんは大きく成長し、かつ生徒たちに好評であったため、他の学校にもRewrites Summaryの効果は期待できると思われる。今後、他地域の学校、または公立の学校に Rewrites添削サービスの導入を検討したい。

成果：学校教師の働き方

学校教師にとっては、予習として生徒が使うストーリーブックを事前に読む必要性が生じたものの、授業内外の**負担は減った**。
 ALTの先生にとって授業中の負担は増えたと感じられているが、**ALTとしての役割が明確になり**、よりやり甲斐のある形で生徒たちに貢献できるようになった。（ALTは授業中、学校教師と同じように生徒ひとりひとりのコーチングを行っていた。）

Q. 先生の負担は、Rewritesのカリキュラムを使う以前に比べてどのように変わりましたか？

学校教師	授業中の負担	負担が 減った
	授業外の負担	負担が 減った
ALT	授業中の負担	負担が 増えた
	授業外の負担	負担は 変わらない

(Before Rewrites)
 授業外 **430分/週**
 ※添削ひとりあたり10分かけていた

(After Rewrites)
 授業外 **50~90分/週**
 ※事前に本を読む為

ALTとしてやり甲斐が感じられた。
 (下記参照・事後アンケートより)



3. 授業中の先生の負担は、Rewritesのカリキュラムを使う以前に比べてどのように変わりましたか？

負担が減った・変わらない **負担が増えた**

ALTとして一人一人に説明する時間が増えたが、逆に効率的に手伝えられて嬉しい。

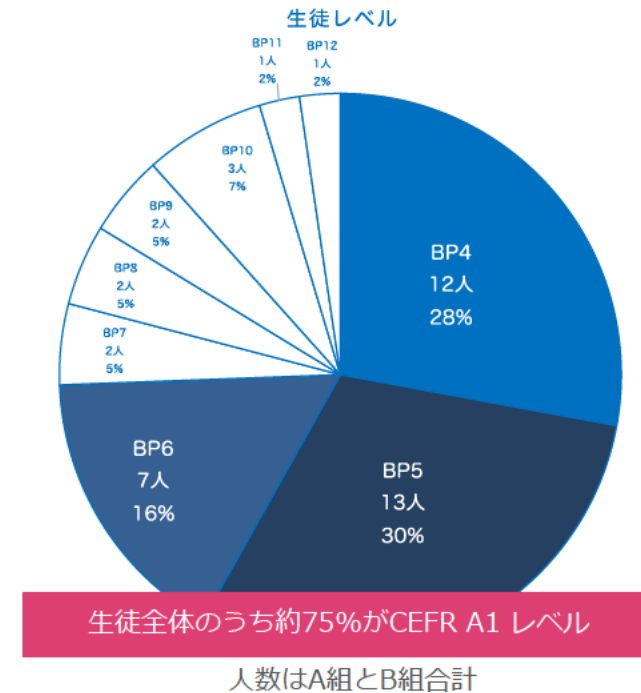
ALTの Bethさん (英国出身)

成果：生徒ひとりひとりに合った英語学習①

今回対象となった生徒のレベルは英検 4 級～準 1 級レベルまで大きく幅があった。レベルチェック結果により、各生徒のレベルにあった本を提供した。Rewrites Summary を通じて、生徒たちは自分のレベルに合った本を読んでライティングを提出し、オンライン添削教師によりひとりひとりにカスタマイズされた添削を提供することができた。どのレベルであっても生徒は周りを気にせずに自分のライティング力にフォーカスできたため、アウトプットを増やし、表現力などを磨くことができた。つまり、「個別最適化」が可能となった。

千代田高等学院の生徒たちのレベルチェック結果

レベル (キャタル)	CEFR	目安 英検級	A組	B組
BP12	B2	準1級 - 1級	1人	0人
BP11	B2	準1級	1人	0人
BP10	B1	2級	1人	2人
BP9	B1	2級	1人	1人
BP8	B1	2級	1人	1人
BP7	A2	準2級	2人	0人
BP6	A1	3級	2人	5人
BP5	A1	4級 - 3級	6人	7人
BP4	A1	4級	6人	6人



成果：生徒ひとりひとりに合った英語学習②

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、今回クラスA&Bを担当した学校教師は Rewrites Summary を通じて生徒一人一人の実力にあった授業を提供できるようになったと感じられている。



英語科の村上先生

Q. 生徒一人一人の実力にあった授業を提供できていると思いますか？



(事前アンケートより)

こんなに実力差のあるグループをもつのははじめてで試行錯誤の日々です。またテキスト（検定教科書）を使った授業を求められることが苦痛です。他のテキストを使いたくても予算がない。また一人一人が目指すもの（目標、目的）も差があり、クラスの中で目指すゴールが定めきれない。各々に合わせたことを伺い提供できるのか、と日々悩んでいます。

(事後アンケートより)

一人一人の進度に合わせて対応は違った。内容が理解できない子には質問をしながら内容確認したり、音読の際に音源のスピードについていけない子には一緒に音読したり、対応を変えることが要求された。（Rewrites カリキュラムを通じて生徒は）本を読むことを嫌がらなくなった。一人一人に対応してもらえたので各々が「丁寧に扱ってもらっている」という感覚がもてたようだ。（これはモチベーション維持において影響が大きい。）他の人と比べず、自分自身と向き合えたことで自分の課題に気づいたように思う。

成果：生徒のライティング力向上（定量的成果）

定量的成果：7回目までは、限られた時間内で書ける分量（アウトプット）が増えた。

※8回目は事後アンケート実施のため授業時間が短縮。

※9・10回目はA組&B組の合同授業となり、全員が順調に提出できたとは言えない。

成果測定方法：

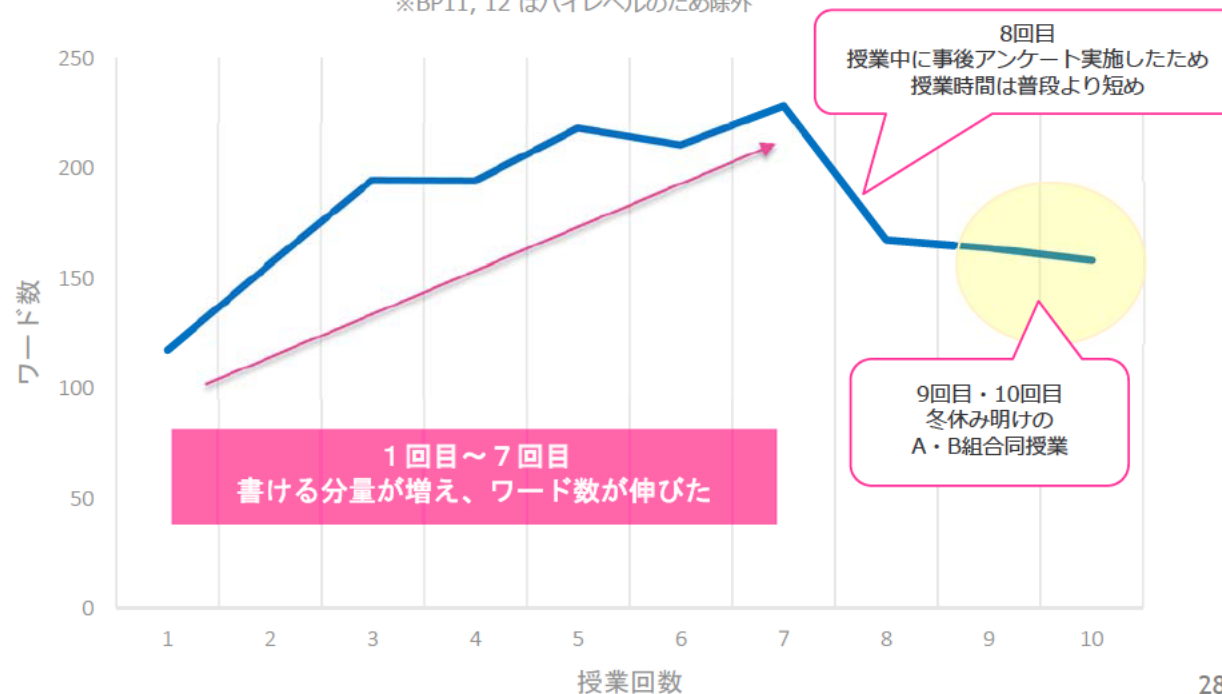
各提出のワード数を抽出し、

授業の回数ごとの全体の平均を計算。



平均ワード数の推移（BP4-10）

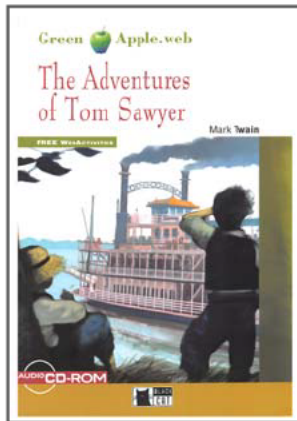
※BP11, 12 はハイレベルのため除外



285

成果：生徒の例①

BP4: The Adventures of Tom Sawyer
(CEFR A1, 英検 4 級)
S.Y.さんのライティング例
※添削前の提出の比較



1回目（添削前の提出）

64 words

This is Tom's story. Tom is mischievous boy. He is Polly's sister's child. He's mother dead. Polly love Tom, but it's not easy to look after him. Saturday is there's no school so Tom must work. He hates working but he must learn to do it. It's Saturday and he have to paint long fence. He thought it's going to be a very long day.



7回目（添削前の提出）

190 words

On Saturday it was Becky Thatcher's birthday and all her friends were excited. Tom invited to Becky's birthday picnic near the river. Tom was very happy because he liked Becky. On Saturday in afternoon the children went to visit McDougal's Cave. It was an exciting place but it was a bit scary. Everyone had candles because it was very dark inside.

McDougal's Cave was very big and had hundreds of long tunnels. It was easy to get lost. The children played and ran around in the big cave, but they always stayed near the entrance. They did not want to get lost. Tom and Becky wanted to find new tunnels in the cave. They walked and walked until they were alone.

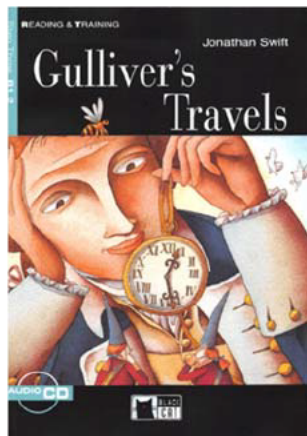
On the other hand Huck did not know about the picnic.

Tom and Becky walked in the long, dark tunnels. they were tired and hungry. Becky had a piece of cake in her pocket and they ate it. Then their candles died and everything was dark. They were tired and slept. When they woke up they were very hungry and thirsty. Tom heard noise. Becky looked at Tom and smiled. Ton was going to see.

アウトプットが増え、
より自然な英語を書けている

成果：生徒の例②

BP7: Gulliver's Travels
(CEFR A2, 英検準2級)
R.S.さんのライティング例
※添削前の提出の比較



2回目（添削前の提出）

62 words

Phileas Fogg left his house at same time every day.He knewn the exact lenght of every step.
On 29 September, the robbery took place . The thief stole fifty-five thousand pounds
.Andrew Stuart talk about the this.
Then,Phileas Fogg makes a bet to use twenty thousand pounds . He goes around the world in
eighty days.He hoped he was not going to lose the bag.

7回目（添削前の提出）

192 words

They across the high mountains Colorado. Passepartout did not want Colonel to meet
Phileas Fogg because, Colonel wanted to fight with Phileas Fogg. In three days and three
night, they move 2,200 kilometres. Colonel and Fogg moved dinner carriage. Mrs Aouda
and Passepartout heard a gunshot. Passepartout was running the dinner carriage. He worry
Fogg's life but when he arrived there, he was surprised him more. Both Fogg a
had guns, but they were shooting at a Sioux Indians. It is because Sioux Indian
trains. When the battle was over Fogg could not find Passepartout. The soldie
and followed the direction of the Sioux. Fix and Mrs Aouda waited for Fogg, but they could
not meet Fogg. After a while a group of people were coming back. Fogg looked safe! Mrs
Aouda cried. They will go to in New York, but they did not catch the train, so they had a one
way. They climbed the sledge. It was very quickly to used the sledge to across the icy. Two
days later, they arrived in New York. They went to the port, but the ship was already leaves.

アウトプットが増え、
より自然な英語を書けている

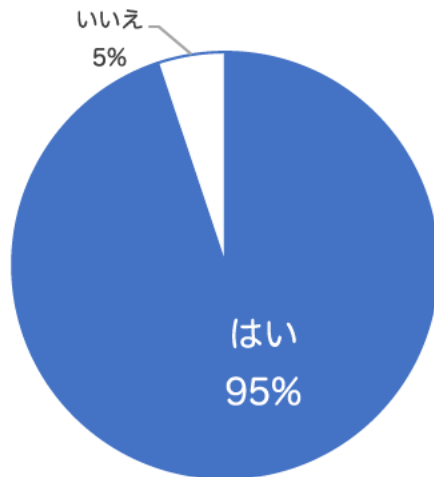
287

成果：成長の実感（定性的成果）

事前アンケートと事後アンケートにて各生徒にライティング力を自己評価してもらったところ、Rewrites Summary 導入後は自己評価が全体的に高くなったことが伺えた。

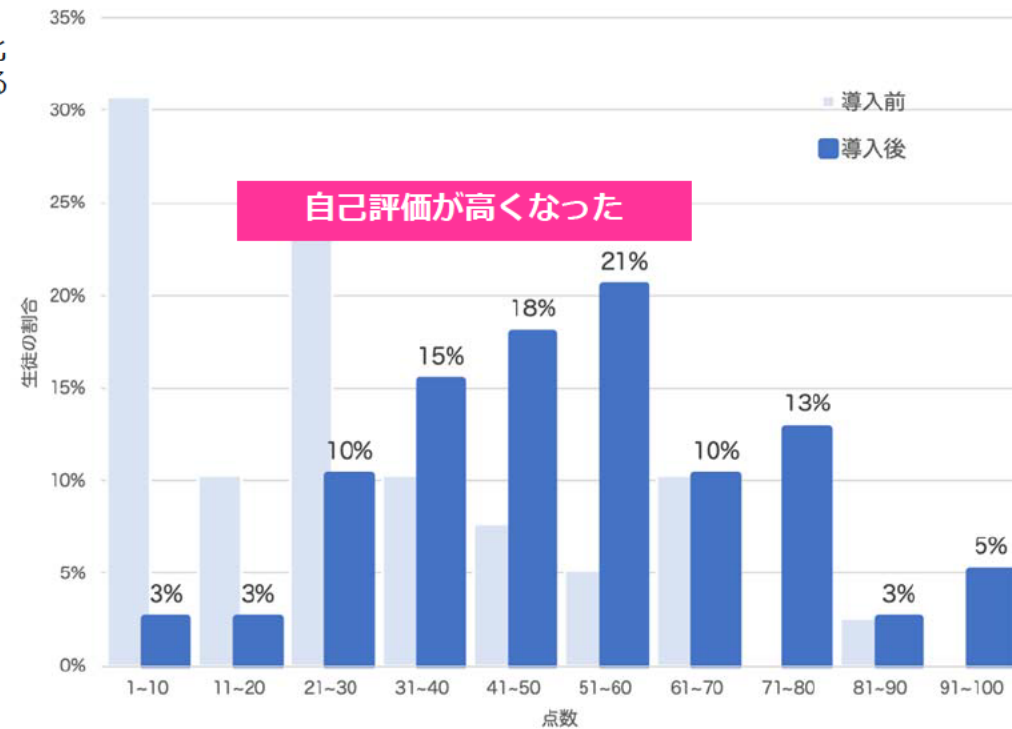
また、ほとんどの生徒が Rewrites Summary は自分の英語力強化に効果的だと感じており、今回のプログラムを通じて成長を実感していることがわかる。

Q. Rewritesは必要な英語力を身につけるために効果的だと感じますか？



Q. 今の自分のライティング力は100点満点中何点ですか？

ライティング力の自己評価（導入前と導入後）



288

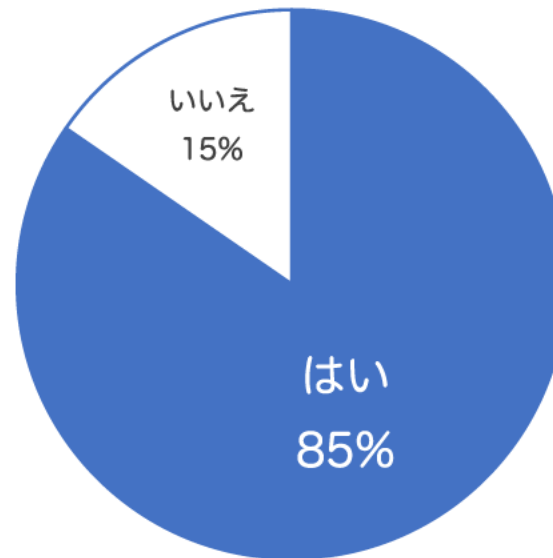
成果：生徒の満足度①（定性的成果）

多くの生徒がRewrites Summary のカリキュラムを「**続けたい**」と感じている。

特に、自分宛のフィードバックが毎回届くという点が、生徒たちの満足度に貢献したことが伺える。

成果：生徒の満足度②（定性的成果）

Q. 将来の自分の英語力のために、
今やっている事（音読＋Rewrites）を続けたいと思いますか？



290